

◆今月号より「マンスリーレポート」と「コーディネート・ニューズレター」を一体化してお届けします。冒頭に「日本骨髄バンクの現状」として移植数、登録者数に関する数字をまとめ、続く「一般向け記事」の後に「ドナーコーディネート関連コーナー」が加わります。巻末にこれまでと同様の集計資料が付きます。

日本骨髄バンクの現状（平成 21 年 3 月末現在）

	2 月	3 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,943	2,436	335,052	425,204
患者登録者数	214	237	2,494	27,250
骨髄移植例数	78	102	-	10,355

■20 歳未満のドナー登録者数

3 月 124 人
合計 9,440 人（17 年 3 月～）

■51 歳以上のドナー登録者数

3 月新規 91 人
延長 253 人
合計 14,264 人（17 年 9 月～）

注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

■3 月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム	献血併行登録会	集団登録会	その他	合計
1,195	1,021	101	119	2,436

■国際協力の現状

			2009.1～3				～2009.3 末
海外ドナーから国内患者へ			新規登録患者	全抗原適合*	コーディネート数	移植数	累計移植数
NMDP（米国）	→	日本	9	8	2	1	114
BTCSCC（台湾）			9	3	1	0	29
KMDP（韓国）			9	4	1	0	13
CMDP（中国）			9	4	1	0	0
計							156
国内ドナーから海外患者へ			新規登録患者	全抗原適合*	コーディネート数	提供数	累計提供数
日本	→	NMDP（米国）	37	27	27	0	13
		BTCSCC（台湾）	0	0	0	0	0
		KMDP（韓国）	47	20	17	1	145
		CMDP（中国）	23	6	0	0	0
		その他の国**	-	-	-	2	25
計							183

* 1 人でも適合したドナー候補者が見つかった患者の数。

** その他の国と地域は累計のみ掲載します。提供内訳は香港 7 件、ドイツ 3 件、英国 2 件、オーストラリア 2 件、ブラジル 2 件、ベルギー 2 件、オランダ 1 件、カナダ 1 件、シンガポール 1 件、フランス 1 件、オーストリア 1 件、イタリア 1 件、タイ 1 件。

■骨髄バンクを介して 2 回提供された方（累計数） 496 人

■DLI（ドナーリンパ球輸注）療法の実施件数（累計数） 295 件

1 平成 20 年度の移植数及びドナー登録者数

平成 20 年度は、12 月 3 日に骨髄バンクを通じた非血縁者間骨髄移植数が 1 万例に到達した節目の年となりましたが、年度を通じた移植数についても 1,118 件で、昨年度（1,027 例）を 91 件上回り、過去最高となりました。1,118 件の内訳を見ると、〔国内ドナー→国内患者〕が 1,103 件、海外バンクを介した〔海外ドナー→国内患者〕が 4 件、〔国内ドナー→海外患者〕が 11 件となっています。また、新規ドナー登録者数は 37,826 人で、前年度（38,003 人）と比較して 177 人の減少となりました。累計では 335,052 人（3 月末現在）となっています。平成 20 年度につきましても、移植例数、ドナー登録者数ともに着実に増やすことができました。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。しかし、いまだに移植を受けることができるのは、骨髄バンクに新規登録された患者さんの約 6 割にとどまっています。今年度につきましても、引き続きより多くの移植を実施できるよう努めてまいります。

2 通常理事会・評議員会において平成21年度事業計画・予算等が可決承認

第36回通常理事会、評議員会が3月26日に開催され、平成21年度事業計画、一般会計並びに特別会計収支予算等が可決承認されました。 ※詳細は財団HPをご覧ください <http://www.jmdp.or.jp>

平成21年度は主に以下の事業に重点を置いて取り組んでいきます。Ⅰ. 移植率向上へ向けて、1. 更なるドナー登録者の拡大、2. ドナー登録者の骨髄提供意思の維持が可能となるよう「ドナー休暇」導入等の働きかけ、3. ドナーコーディネート期間の短縮、Ⅱ. 増大する処理件数に適切に対処するための処理体制の充実、Ⅲ. HLA-C座検査の適切な導入、Ⅳ. 末梢血幹細胞移植の導入に向けての検討や準備。また、普及広報業務については、長年支援をいただいた公共広告機構のキャンペーンが昨年7月に中断したこと等を受け、有識者によって専門的な立場から財団の広報活動を検討していただく、広報推進委員会を設置します。

平成21年度の予算では厳しい経済情勢を背景に、国庫補助金や寄付金が減少しています。これに対処すべく、年2回発行しているバンクニュースについて内容の整理等を行い、経費の節減を図ることとしています。一層効率的な予算執行を行うとともに、募金活動を強化して財源の確保に努めていきます。

平成21年度は理事・評議員の改選の年です。理事については南砂理事、陽田秀夫理事が退任され、橋本明子氏が新たに選任されました。また、評議員については五十里明評議員、岡本罔衛評議員、小田與之彦評議員、栗山泰史評議員、鈴木紀郎評議員、樋口康子評議員、水巻中正評議員、矢部正二評議員、四方田淳評議員が退任され、安里繁信氏、河敬世氏、笹井康典氏、鈴木正晴氏、土田昌宏氏、松尾憲治氏、森島泰雄氏、中山仁氏、陽田秀夫氏が新たに選任されました。いずれも任期は平成23年3月末日までです。また、4月8日に開催された臨時理事会で、理事長、副理事長、常務理事が再選され、常任理事には評議員に選任された陽田秀夫氏に代わり、佐々木利和理事、橋本明子理事が新たに選任されました。

3 生活保護受給世帯に対するドナーの入院時差額ベッド代の財団負担について

骨髄ドナーの入院時に差額ベッド代が必要となる場合、移植患者さんにその費用をご負担いただいております。しかし、患者さんが生活保護を受けている場合には実際に支払えない場合が多いことから、当財団が一定の負担をさせていただくことになりました。本来、患者さんの負担軽減の観点からは、すべての患者さんへの対応が望ましいと考えておりますが、財団の財政状況から困難なため、現在、最も必要性が高い生活保護受給世帯の患者さんへのみ対応させていただきます。

4月1日以降に移植を受けた患者さんが対象です。詳細は各認定施設へご案内させていただきました。

4 平成20年度説明員研修会が終了

平成20年度の説明員研修会が2月21日～3月28日にかけて全国9カ所（札幌、仙台、新潟、東京、名古屋、大阪、岡山、高松、福岡）の会場で実施され、264名の方が参加しました。骨髄移植推進財団の現状と課題について財団から説明を行なった他、それぞれの地区でのドナー登録会の現状と問題点について、意見交換や質疑応答が行われました。

5 骨髄バンク・さい帯血バンク合同公開フォーラム

特定非営利活動法人全国骨髄バンク推進連絡協議会、日本さい帯血バンクネットワーク、財団法人骨髄移植推進財団の共催で、「第4回骨髄バンク・さい帯血バンク合同公開フォーラム」が開催されます。テーマは「～真の患者救命のために～ これからの日本の造血幹細胞移植」です。

■日時：2009年（平成21年）4月26日（日）10時～17時 ■会場：日本赤十字社本社ビル 201会議室

6 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
常任理事会	公開・一部非公開	4月16日(木) 17:30～ 廣瀬第1ビル2階会議室
常任理事会	公開・一部非公開	5月15日(金) 17:30～ 廣瀬第1ビル2階会議室

ドナーコーディネーター関係者のコーナー

以下は、調整医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

7 「平成 21 年度事業計画」ドナーコーディネーターに関する重点的取り組みについて

平成 21 年度事業計画において、ドナーコーディネーターに関しては、コーディネーター実施体制の整備・強化のため、下記の項目について重点的に取り組んでいきます。

- ①骨髄採取の受け入れ確保（1施設あたりの骨髄採取数と骨髄採取施設数を増やす働きかけ）、②調整医師不足の解消と医師の負担軽減（調整医師になっていない血液内科医師への働きかけ、他）、③コーディネーターの確保と定着化（コーディネーター制度の再構築、コーディネーターの処遇改善、コーディネーターの仕事を取り巻く環境改善）、④よりきめ細かいコーディネーターの実施（コンピテンシーなど研修の充実、土曜日確認検査試行の拡大、他）

8 平成21年度非血縁者間骨髄移植採取認定施設に対する認定証の発行について

平成 21 年は、157 施設が非血縁者間骨髄採取施設として、205 診療科が骨髄移植診療科として認定更新されました。今年度から希望された認定施設に対して認定証を発行することとなり、4月初旬より各施設へ送付しています。平成 20 年度の年間移植例数は過去最高（前述／1 ページ）となり、前年比約 1 割増加しました。今後も円滑な処理を実施すべく、処理体制の整備に努めてまいりますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願ひします。

9 確認検査項目（HCV抗体）の検査方法変更について

確認検査の検査項目のうち、HCV抗体（第3世代）の検査に使用している検査試薬の販売が中止となったため、4月3日（金）確認検査実施分から検査方法が下記のとおり変更になりました。

	<現行の検査方法>	⇒	<新しい検査方法>
○検査方法	RIA固相法（IRMA）	⇒	CLEIA
○基準値	Cut off index		
	陰性 0.9以下	⇒	陰性 1.0未満
	陽性 1.0以上	⇒	陽性 1.0以上
○検体量	血清 0.2ml	⇒	血清 0.7ml（ドナーの方からの採血量は変更ありません）

10 国際コーディネーターについて（注意喚起とご連絡）

国際コーディネーターの確認検査において、ドナーの海外用検体採血を忘れたため、再度、ドナーさんに来院していただいた事例が 2 件起きました。関係者の皆様には、担当地区事務局から国際コーディネーターであることを申し送り事項としてお伝えしていますが、改めて以下の点についてご確認のうえ、（次頁へ）

再発防止に努めていただきますようお願いします。

- ① 確認検査前日に、コーディネーターは調整医師に、SRLからの国内用採血管のほかに海外発送用採血管が届いているかをご確認ください。
- ② 確認検査（そのときの状況に応じ）採血前または採血後に、コーディネーターから調整医師に、海外発送用検体の採血依頼のお声がけ、または採血済みについてのご確認をお願いします。
 また、調整医師に記載していただいております「骨髓ドナー確認検査報告書（問診・診察所見）」の2枚目を次のとおり変更します。（帳票は5月上旬から変更予定です）

調整医師判定

問診・視診・診察の結果ドナーとして

- | | | | |
|-------------------------------------|-----|---|---|
| <input type="checkbox"/> 適（採血する）（食後 | 時間） | → | <input type="checkbox"/> 採血管IDとドナーID確認済 |
| | | | ※ID Noを必ずご確認ください |
| | | → | <input type="checkbox"/> 海外発送用検体の採血済 |
| | | | ※国際コーディネートの場合のみご確認ください |

※なお、先日行われた関東地区コーディネーター会議の際、「調整医師の負担を少しでも減らすために、海外発送用ボックス梱包の際に使用するガムテープが事前に用意してあると助かる」というご意見をいただきました。検討の結果、フェデックスの集荷の場合にのみ、採血管セットの送付時にガムテープ（必要分量）も同封することとしました。

11 WMDA会議について

世界骨髓バンク機構（World Marrow Donor Association）では、加盟バンクをはじめとする64の国と地域から代表者・関係者が集まり年2回会議を行っています。今年第1回目の会議は、3月26日から28日までヨーロッパ骨髓移植学会と同時期にスウェーデンで開催し、約90名が参加しました。造血細胞移植における国際協力の体制を整備するため、国際コーディネートに関する各国の規制の現状について意見を交換し、主に骨髓液運搬時のガイドライン作りについて話し合いを行いました。

12 連絡事項

- ① ゴールデンウィーク期間の確認検査・再検査の実施、SRLへの予約について
 - 確認検査実施について
4/30（木）、5/1（金）は確認検査を実施できません。再検査についてはカレンダーどおり実施可能です。
 - SRLの予約について
5/7（木）、5/8（金）、5/11（月）採血分の予約は4/28（火）14:00までです。
- ② ゴールデンウィーク期間の東海大学における検体保存事業の検体受付について
 基本的にはカレンダーどおりです。詳細は下記をご参照ください。
 - 連休前・・・5/1（金）までに東海大学必着
 ※北海道・九州地区は4/28（火）までに、その他の地区は4/30（木）までに発送してください。
 - 連休後・・・5/7（木）採血・発送分から受付可能
 ※北海道・九州地区は5/11（月）採血・発送分から受付可能です。
- ③ 下記の資料を同封してお送りします。
 - ◆ 生活保護受給世帯の患者に対するドナーの差額ベッド代の財団負担についての案内
 認定施設に対して送付した案内状を、ご参考までに同封します。
 - ◆ 第14回コーディネーターブラッシュアップ研修会終了時アンケート集計結果について（コーディネーターの皆さまへ）